

畜産茨城

第496号

令和4年5月31日

発行所／茨城県水戸市梅香1丁目2番56号
公益社団法人 茨城県畜産協会
電話 029(231)7501
URL <http://ibaraki.lin.gr.jp>
発行人／八木 岡 努

目次

「たまニコAGAIN2022 ～日本縦断チャリリレー～」……………	1	牛マルキン発動状況……………	5
令和4年度畜産施策方針と重点施策…	2	畜産センター第3期中期 運営計画を策定しました……………	6
新任挨拶……………	3	令和3年シーズンの 野鳥の高病原性鳥インフルエンザ…	6
令和4年3月市況……………	4	第12回全国和牛能力共進会 茨城県予選大会の開催……………	7
肉用子牛生産者補給金発動状況……………	4		
令和4年4月市況……………	5		



「たまニコAGAIN2022～日本縦断チャリリレー～」 茨城県チャリダーがタスキをつなぐ

茨城県養鶏協会

全国の養鶏農家とその仲間たちが自転車でタスキをつなぎながら、たまごの正しい知識や魅力を消費者に伝えるイベント「たまニコAGAIN2022～日本縦断チャリリレー～」(主催(一社)日本卵業協会)が、全国6ブロック(北海道・東北、関東、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄)ごとに分かれて行われ、4月28日に各県の代表者が愛知県名古屋(国際養鶏養豚総合展2022会場)に集まり出発式が行われました。

関東ブロックは東京都から始まり、千葉、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨、神奈川、静岡とタスキをつなぎます。本県は当協会青年部が、5月14日千葉県からタスキを受け取り、5月21日(土)土浦市「りんりんポート土浦」を出発し、受け渡し地点のJR岩瀬駅に向かって、つくばりんりんロード約40キロを走行しながら、たまごのPR活動を行いました。岩瀬駅前において無事栃木県へタスキをつなぎ、本県のイベントは終了しました。

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立てられています

令和4年度畜産施策方針と重点施策

茨城県農林水産部 畜産課長 棚井 幸雄

【現状と課題】

この度の定期人事異動により、畜産課長を拝命いたしました。本県畜産の振興に尽力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、4月に県内で40年ぶりとなる豚熱の発生が石岡市及び城里町で確認され、関係団体や建設業協会等、地元市町の皆様の御協力により速やかに殺処分等の防疫措置を講じることができましたことに心より感謝申し上げます。

引き続き飼養豚へのワクチン接種や野生イノシシへの経口ワクチンの散布などの発生防止対策と万が一の発生に備えたまん延防止対策に万全を期して参りますので、皆様方におかれましても飼養衛生管理基準の遵守徹底等に御協力をお願いいたします。

さて、本県畜産は、令和2年産出額が1,270億円と農業産出額の約3割を占める基幹産業となっております。

しかしながら、畜産を巡る情勢は、高齢化による担い手の減少や、人口減少の加速化による国内市場の縮小、また新型コロナウイルス感染症の影響による外食需要やインバウンド需要の低迷、さらに配合飼料や燃料等の資材価格の高騰等による生産コストの増大など、大変厳しい状況が続いております。

このような中、新たな県総合計画では、「農林水産業の成長産業化と未来の担い手づくり」や「県食材の国内外の販路拡大」等を推進することで、本県農林水産業の成長産業化を図り、儲かる農林水産業の実現と持続的に発展する強い農林水産業を目指しております。

畜産においても、儲かる畜産経営体の育成と本県畜産の更なる振興を図るためには、生産性の向上や規模拡大、経営・飼養管理技術の高度化等による収益性の高い経営の育成、長期的な戦略に基づく高付加価値化やブランド化、国内外における積極的な販路開拓等の取組が求められているところです。

さらに、国内で発生が拡大している豚熱や高病原性鳥インフルエンザなど家畜伝染病の発生予防とまん延防止対策など家畜衛生対策や、霞ヶ浦流域内での畜産環境対策の徹底などが重要な課題となっております。

【対応方針】

儲かる畜産経営体の育成と本県畜産の更なる振興を図るため、必要となる施策を「銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策」、「家畜衛生対策の充実と安全安心な畜産物の生産」、「環境にやさしい資源循環型畜産の実現」、「試験研究の推進と畜産技術の普及促進」の4本の柱に体系化し、関係者と連携のもと推進してまいります。

【主な重点施策】

(1)銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策

「常陸牛」については、更なる品質とブランド力向上を図るため、脂肪の質等に着目した新たな肉質基準の導入に向けた検討を進めるとともに、優良な繁殖雌牛の増頭を支援することで子牛から肥育まで一貫した生産体制の構築や経営規模拡大や法人化等による儲かる経営の実現を支援してまいります。また、国内外での販売促進活動を支援することで、生産から流通・販売までの対策を一体的かつ戦略的に展開してまいります。

「常陸の輝き」については、雌系品種や飼料形状等の違いによる肉質向上効果を明らかにするとともに、雌系品種である新たなランドレース種の系統維持・供給施設を整備することで、更なる高品質化と安定生産体制を構築してまいります。

「奥久慈しゃも」については、実需者から高く評価されている品質を維持しながら原種鶏を安定的に供給するとともに、更なる販路拡大に向けて推進方策について検討を行ってまいります。また、本県の鶏卵については、生産量が日本一であることだけでなく、茨城の「こだわり卵」の魅力を全国に発信し、消費拡大を図ってまいります。

酪農については、優良な後継雌牛の導入支援による中核的な酪農経営体の育成や、畜産クラスター計画に基づき畜舎や施設機械等を整備し、経営の規模拡大・収益性向上を図る取組を支援してまいります。

(2)家畜衛生対策の充実と安全安心な畜産物の生産

家畜伝染病の発生予防対策として、農家自らが行う消毒機器の整備や防鳥ネットの設置等を支援するとともに、飼養衛生管理基準の遵守指導に加え、豚熱対策として、防疫指針に基づく飼養豚へのワクチン接種や野生イノシシへの経口ワクチン散布等を実施してまいります。また、万が一の家畜伝染病が発生した場合のまん延防止対策として、速やかに防疫措置を講じられるよう防疫マニュアルを策定し、さらに大規模農場での発生を想定し、市町村や関係団体等と一体となった防疫措置態勢を構築するとともに、初動防疫に必要な資材の備蓄や防疫演習を実施してまいります。

(3)環境にやさしい資源循環型畜産の実現

「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づく管理基準の遵守を指導するとともに、家畜排せつ物の管理・利用状況の把握、畜舎排水の適正化指導、臭気の低減対策を推進してまいります。また、霞ヶ浦・涸沼流域で生産された堆肥について、流域外の農

地での利用や肥料メーカーへの原料供給等による広域流通の促進、家畜排せつ物処理施設の補改修による適正処理の支援、液状肥料利用推進のモデル事例づくりを推進し、畜産経営体からの霞ヶ浦・潟沼への負荷削減を図ってまいります。

(4)試験研究の推進と畜産技術の普及促進

昨年度策定した「畜産センター中期運営計画」

に基づき、「ブランド力強化を支える先端技術等を活用した新品種・新技術の開発」と「持続可能な畜産及び地球温暖化に対応した技術の開発」に重点的に取り組んでまいります。また、試験の実施にあたっては、行政機関をはじめ、国立研究開発法人並びに大学等の研究機関、関係団体、民間等と連携を図り、効率的かつ効果的に研究に取り組んでまいります。

新任挨拶

茨城県畜産センター肉用牛研究所長 笠井 勝美

この度の人事異動により、肉用牛研究所長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

県では、畜産行政の重点施策の1つとして「銘柄畜産物のブランド力強化と生産振興対策」を掲げ、「常陸牛」の更なる品質向上とブランド力向上のための取組を進めています。

肉用牛研究所では、常陸牛生産の基盤となる高能力種雄牛の造成に力を注いでおり、現在13頭の種雄牛を繋養し、人工授精用精液の配布を行っています。昨年8月には、長く県の肉用牛生産を支えてきた「北国関7」が天寿を全うしましたが、その息牛である「北平関」は枝肉重量、脂肪交雑の育種価が高く、父親を凌ぐ活躍が期待されています。その他にも肉質・増体に優れた「茂光洋」や「日出丸105」、「塙安福」、

「北平5」、「百合宏」などの精液譲渡を行っています。これからは、他県産和牛にはない「おいしさ」等の特徴を兼ね備えた常陸牛を生産するため、ゲノミック評価を活用した種雄牛の造成に取り組んでまいります。

また、繁殖雌牛増頭のための技術として、水田や耕作放棄地等を活用した周年放牧管理技術や、早期母子分離・人工哺乳による子牛育成技術などの研究を進めて、規模拡大や一貫経営化に必要な低コストで効率的な飼養管理技術の確立と普及促進に取り組んでまいります。

今後とも県内肉用牛農家の儲かる畜産の実現のため、現場のニーズに対応した試験研究に取り組んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新任挨拶

茨城県畜産センター養豚研究所長 本谷 直

この度の人事異動により、養豚研究所長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い致します。

現在、新型コロナウイルスの流行によるテーブルミートの需要拡大、ロシアのウクライナ侵攻による小麦・トウモロコシ価格の上昇など様々な国内外要因で豚肉価格が高騰しています。さらに、国内では豚熱やPED・PRRS等の発生により国産豚肉の不安定さは増しています。

特に、豚熱は令和4年4月に本県において1982年以来40年ぶりに2農場で感染が判明しました。これまでも野生イノシシの感染は地域的な広がりを見せており、県内でも159頭が確認されています（令和4年4月21日時点）。養豚農家の皆様は、ワクチン接種に加えて、豚熱を媒介する野生イノシシ等が農場内に侵入しないよう、防護柵・防鳥ネットの定期的な点検や補修を行い、ウイルスを農場内に、持ち込まないよう飼養衛生管理基準の再確認を行うとともに

に、異常が確認された場合は早期通報をお願い致します。

当研究所では、県産豚肉が国内外の産地間競争に打ち勝ち、農家の経営安定を図ることができるよう、「常陸の輝き」「ローズポーク」を中心にブランド力向上を掲げ、県産豚肉の牽引役となる新ブランド豚肉を確立すべく、次のような取組をおこなっています。「ローズD-1」の遺伝子解析を活用した筋肉内脂肪含量（IMF）の高位平準化、三元交配豚の安定生産のための「ローズL-3」の後継豚の系統造成、農家ニーズに対応した大ヨークシャー種の改良、機能的物質給与による精子活力向上など、種豚や人工授精用精液の供給を通して、更なる高品質化のための課題に取り組んでいきます。

今後とも現場の要望に対応した課題設定に努め養豚農家のための研究に取り組んでまいりますので、関係各位のご指導ご鞭撻をお願い致します。

令和4年3月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
9	一般子豚	34	23,760	21,010	21,748	50
	ベビー豚	100	25,520	14,520	20,254	35
23	一般子豚	0				50
	ベビー豚	113	25,300	17,270	22,630	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	64	872,300	459,800	670,519	287	2,335
		♂	0					
		去計	91	977,900	542,300	825,290	319	2,587
	F1	去計	155	977,900	459,800	761,385	306	2,489
		経産	14	1,098,900	211,200	648,686	—	—
		♀	0					
		去計	0					
		去計	0					

食肉地方卸売市場

株式会社茨城県中央食肉公社

開催日	豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日 牛枝肉：毎週月曜日、木曜日									
項目	上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)						屠畜頭数	
	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛
豚	15,488.0	79.2	573	497	468	438	370	457	28,445	766.0
牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)		
和牛	A	225	261	467.1	2,539	2,298	1,860	1,341	2,336	
	B	26			2,361	2,142	1,724	1,075		
	C	10			—	—	—	946		
乳牛	A	0	173	302.4	—	—	—	—	551	
	B	8			—	—	—	659		
	C	165			—	—	895	625		
交雑牛	A	20	70	457.6	1,799	1,694	1,473	1,123	1,407	
	B	37			—	1,700	1,438	1,217		
	C	13			—	—	997	921		

3月の市況は3月集計数値を4月上旬に掲載します。

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
16	和牛	♀	34	907,500	298,100	665,112	278	2,392
		♂	0					
		去計	28	966,900	613,800	759,157	309	2,453
		去計	62	966,900	298,100	707,584	292	2,421

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日			5、9、15、19、25、29			
畜種	年齢	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	♀	5	141,900	9,900	66,000
		♂	94	173,800	1,100	102,733
		去計	5	91,300	13,200	52,800
		去計	104	173,800	1,100	98,566
	3歳以上	♀	2	407,000	372,900	389,950
		♂	0			
		去計	2	407,000	372,900	389,950
		去計	2	407,000	372,900	389,950
F1	スモール	♀	69	240,900	28,600	158,496
		♂	63	253,000	33,000	179,021
		去計	0			
		去計	132	253,000	28,600	168,292
	子牛	♀	5	185,900	176,000	180,400
		♂	2	242,000	194,700	218,350
		去計	0			
		去計	7	242,000	176,000	191,243
黒毛和種	スモール	♀	1	429,000	429,000	429,000
		♂	5	561,000	467,500	501,600
		去計	0			
		去計	6	561,000	429,000	489,500
	子牛	♀	2	462,000	455,400	458,700
		♂	3	495,000	408,100	459,433
		去計	0			
		去計	5	495,000	408,100	459,140
	3歳以上	♀	1	184,800	184,800	184,800
		去計	0			
		去計	1	184,800	184,800	184,800

肉用子牛生産者補給金発動状況

令和3年度第4四半期(2022年1～3月)

○肉用子牛生産者補給金制度

(単位：円／頭)

区分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	541,000	498,000	320,000	164,000	274,000
合理化目標価格	429,000	395,000	253,000	110,000	216,000
平均売買価格	730,200	589,500	311,800	231,200	324,400
補給金単価	—	—	8,200	—	—

※「その他の肉専用種」については、令和2年度から算定期間を1年(4月～3月)としている。

令和4年4月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
6	一般子豚	23	24,750	24,420	24,593	50
	ベビー豚	119	24,970	17,490	22,757	35
20	一般子豚	20	23,210	16,830	21,120	50
	ベビー豚	144	25,300	11,440	21,276	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	65	1,013,100	531,300	692,678	299	2,319
		♂	100	1,046,100	469,700	769,494	318	2,421
		去計	165	1,046,100	469,700	739,233	310	2,382
	経産		12	711,700	126,500	434,408	-	-
	F1	♀	0					
		去計	0					

食肉地方卸売市場

株式会社茨城県中央食肉公社

開催日			豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日								牛枝肉：毎週月曜日、木曜日			
畜種	項目		上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)							屠畜頭数		
			頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛		
			豚	15,318.0	79.5	537	512	484	457	373	472	27,565	874.0	
			牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)			
和牛	A	266	293	503.8	2,614	2,257	1,586	1,242	－		2,464			
	B	21			2,434	1,918	1,377	1,063	974					
	C	6			－	－	－	－	873					
乳牛	A	0	183	312.0	－	－	－	－	－	585				
	B	15			－	－	599	659	598					
	C	168			－	－	－	625	497					
交雑牛	A	17	66	468.0	1,859	1,790	1,618	－	－	1,543				
	B	37			1,861	1,676	1,441	1,368	－					
	C	12			－	－	1,529	1,084	527					

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
なし	和牛	♀ ♂ 去計						
開催なし								

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日			5、9、15、19、25、29			
畜種	年齢	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	♀	3	47,300	29,700	39,967
		♂	100	199,100	1,100	138,611
		去計	0			
	子牛	♀	103	199,100	1,100	135,738
乳牛	子牛	♀	0			
		♂	3	132,000	66,000	94,967
		去計	6	168,300	99,000	124,117
	1歳	♀	9	168,300	66,000	114,400
F1	スモール	♀	4	552,200	385,000	439,725
		♂	0			
		去計	4	552,200	385,000	439,725
	子牛	♀	70	231,000	78,100	154,346
黒毛和種	スモール	♀	67	276,100	121,000	202,778
		♂	0			
		去計	137	276,100	78,100	178,031
	子牛	♀	3	232,100	166,100	188,100
黒毛和種	スモール	♂	2	151,800	148,500	150,150
		去計	0			
		子牛	5	232,100	148,500	172,920
	子牛	♀	7	473,000	273,900	399,300
黒毛和種	スモール	♂	12	550,000	331,100	487,942
		去計	0			
		子牛	19	550,000	273,900	455,284
	子牛	♀	3	495,000	330,000	437,800
黒毛和種	スモール	♂	3	495,000	420,200	466,767
		去計	0			
		子牛	6	495,000	330,000	452,283
	子牛	♀	6	495,000	330,000	452,283

牛マルキン発動状況

販売月	支払区分	肉専用種(茨城県)	交雑種	乳用種
令和4年3月分	確定単価	-	-	50,246.1円
令和4年2月分	確定単価	-	12,519.9円	51,054.3円
	概算払単価	-	8,449.5円	47,174.7円
令和4年1月分	確定単価	-	-	50,295.6円
	概算払単価	-	-	45,274.8円

- ◆四半期の最終月以外については、交付金を概算払し、各四半期の最終月に確定単価で精算払をしています。(配合飼料価格安定制度の見直しによる生産費用算出の関係によるもの。)また、消費税抜きで算定されています。
- ◆令和2年4月末日から令和3年5月末日までに負担金の納付期限を迎える登録肉用牛のうち、負担金の納付期限を猶予した登録肉用牛について、交付金の交付がある場合は、国費分のみ(4分の3相当額)の支払いとなります。(3品種とも)
- ◆令和2年3月末日までに負担金の納付期限を迎える登録肉用牛のうち、令和3年5月末日までに肉専用種の積立金が不足したので、令和3年4月以降に販売された登録肉用牛について、交付金の交付がある場合は、国費分のみ(4分の3相当額)の支払いとなります。

◎算定基礎の詳しい情報は、(独)畜産産業振興機構HP (<http://www.alic.go.jp>) をご覧ください。

畜産センター第3期中期運営計画を策定しました

茨城県畜産センター 企画情報室

1 はじめに

当センターでは、茨城県の施策におけるセンターの役割と取り組むべき業務を明確にし、着実に進めるため第3期中期運営計画（令和4年度から令和7年度）を策定しました。

これまでの、第1期、2期計画の取り組みにおいては、TPP協定等の発効により海外からの低価格な畜産物が大量に輸入されることが見込まれ、輸入品との明確な差別化ができる特色ある畜産物の生産が求められたことから、新たな銘柄畜産物の作出や肉質に特徴がある和牛の増産等に取り組みました。結果、輸入豚肉とは異なる筋肉内脂肪含量が高いブランド豚肉「常陸の輝き」の父親となる「ローズD1」の造成や、遺伝的能力の評価が高い和牛受精卵生産、「奥久慈しゃも」生産を支える原種鶏の維持等の成果を上げてきました。

2 第3期計画策定にあたっての畜産情勢と施策の方向性

近年、人口減少の加速化による国内市場の縮小や新型コロナウイルス感染症の影響による外食やインバウンド需要の低迷によって高級飲食店での和牛肉の消費が落ち込むなど、これまで以上にほかの畜産物との差別化が求められます。

本県のブランド「常陸牛」については、全国トップブランドを目指すため脂肪交雑量だけではない新たな特徴を持つ和牛の作出が求められています。「常陸の輝き」については、実需者からその肉質を高く評価されているものの一部に

脂肪のバラツキがみられることから一層の品質安定化に向けた改良等を進めていく必要があります。「奥久慈しゃも」については、作出から年数が経過し近交退化等による生産性の低下の恐れがあることから次世代鶏の作出が求められています。

3 第3期中期運営計画について

「ブランド力強化を支える先端技術等を活用した新品種・新技術の開発」と「持続可能な畜産及び地球温暖化に対応した技術の開発」を大きな柱とし、これまで実施してきた血統情報や親の能力等を基に改良を進める後代検定や系統造成に加えて、遺伝子情報を基に選抜・改良を行う新たな種畜造成や、ICT技術を活用した実証実験等に積極的に取り組みます。また、新規就農者を対象とした研修支援や技術指導を通して地域の担い手や後継者支援に取り組んで参ります。

また、着実に研究成果をあげるため、重点的に推進する研究項目ごとに目標達成に向けた実施計画を記したロードマップを作成し、PDCAサイクルを回す中で必要に応じて見直しを行うこととしております。

第3期中期運営計画は茨城県畜産センターホームページに公開しています。

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/chikuse/kikaku/kenkyu/kenkyu/hyoka/hyouka.html>

令和3年シーズンの野鳥の高病原性鳥インフルエンザ

今シーズンの感染の特徴

環境省の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）に関する情報※によれば、令和3年シーズンの野鳥へのHPAI感染は、令和4年5月6日現在、1道1府6県（北海道、京都府、秋田県、岩手県、鳥取県、福島県、鹿児島県、宮崎県）で99例確認されています。

今シーズンの特徴は、留鳥の感染（84例、全体の約85%）が多かったことです。

北海道では、62例中58例が留鳥（ハシブトガラス43例、オジロワシ13例、クマタカ2例）の感染でした。また、岩手県でも24例中15例が留鳥（ハシブトガラス12例、トビ1例、カルガモ1例、ノスリ1例）の感染でした。

ハシブトガラス、オジロワシ、クマタカの分布と生態（Wikipediaより）

ハシブトガラスは、山間部など森林地帯に広く分布していますが、近年日本では都市部で急速に分布を拡げています。食性は雑食で、昆虫や木の実、動物の死骸など、あらゆるものを食べ、スズメなどの小鳥やネズミ、リス、昆虫、鳩などの生きた小動物を捕食することもあります。よく茂った森に集団ねぐらをとる習性があり、冬期には特に多数が集まります。

オジロワシは、日本では主に基亜種が冬季に北日本に飛来（冬鳥）しますが、北海道北部および東部では周年生息する個体もいます（留鳥）。

クマタカは、日本が最北の分布域であり北海道から九州に留鳥として生息しています。

ハシブトガラスへの感染

ハシブトガラスへの感染は、北海道の札幌市で11例、釧路市4例、根室市6例、羅臼町7例、岩手県久慈市で12例のように同じ地点で複数羽が確認されています。



ハシブトガラスは、HPAIに感染した野鳥を補食するなどして感染し、集団でねぐらを共にする習性があることから、集団間で感染が拡

がった可能性が考えられます。北海道大学迫田義博先生は、カラスでの感染拡大は、餌場や水場、ねぐらを共にすることやカラスの共食いの可能性がある。また、カラスで感染・増殖しやすいウイルスが拡がっているのではないかと述べられています（日本農業新聞の記事より）。

留鳥の感染状況の注視の必要性

日本で越冬していた渡り鳥は、3月から4月にかけて春の渡りを終え、繁殖地へ戻っていきます。しかし、渡り鳥が繁殖地に戻っても、今シーズンのように留鳥で感染があり、留鳥間で感染が続いているのであれば、鶏飼養農場で衛生レベルを引き上げる期間は、HPAIの流行期である秋から春ともはや言えなくなります。

カラスは、養鶏場付近で常に目にする留鳥です。留鳥の感染状況を引き続き注視する必要があります。

※環境省のホームページ

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/

衛生課（獣医師：前田）

第12回全国和牛能力共進会 茨城県予選大会の開催

全国農業協同組合連合会 茨城県本部畜産部畜産課

全国和牛登録協会茨城県支部は4月19日、常陸大宮市の全国農業協同組合連合会茨城県本部家畜市場にて第12回全国和牛能力共進会（以下、全共）に出品する牛を選抜する予選大会を開催した。

全共は5年に1度開催される和牛のオリンピックと称される大会で、全国から和牛を集め、各県ごとの和牛の改良の成果を披露する場である。第12回全共は10月6日から5日間鹿児島県にて開催され、種牛の部、肉牛の部、高校及び農業大学校の特別区から構成され合計9区の出品区分となる。各全共でテーマが掲げられ、鹿児島全共のテーマは「和牛新時代 地域かがやく和牛力」となっている。

今回の茨城県予選大会では若雌の部である第2、第3区の出品牛を選抜する大会である。県内の和牛改良組合から出品要件を満たした和牛が集められ、2区で7頭、3区で8頭の合計15頭が出品された。審査委員長を茨城県畜産センター肉用牛研究所の笠井所長が務め、全国和牛登録協会本部より穴田専務理事を特別審査委員として迎えた。

開会式では、和牛登録協会茨城県支部秋山支

部長より、「全共のスローガンに合わせた各改良組合の改良成果を確認し、和牛生産基盤の強化につなげていただきたい」と挨拶をいただいた。

予選大会第2区の選抜牛は大宮地区和牛改良組合のামীゴ牧場出品の「みさと408号」、同改良組合の菊池淳一氏出品の「はつみ401号」、常陸太田市和牛改良組合の山崎正光氏出品の「かつみづき号」の3頭が選抜された。

第3区では北茨城市和牛改良組合の駒木根忠氏出品の「きたてる2号」、大子町和牛改良組合の(株)益子農林出品の「くにやすはな号」、常陸太田市和牛改良組合の(株)ファーム赤土出品の「あい号」、同和牛改良組合椎名みち子氏出品の「ゆうこ号」の4頭が選抜された。

今予選大会で選抜された計7頭の和牛については、7月7日に同会場で開催される全共 茨城県決戦大会に出品され、全共出品牛が決定される。決戦大会までの期間に予選大会で見事選抜された牛は、生産者による調教、飼育がおこなわれハイレベルな大会となることが予想される。

第2区 選抜牛

所属和牛改良組合	氏 名	出品牛名号
大宮地区和牛改良組合	アミーゴ牧場	みさと408
大宮地区和牛改良組合	菊池 淳一	はつみ401
常陸太田市和牛改良組合	山崎 正光	かつみづき

第3区 選抜牛

所属和牛改良組合	氏 名	出品牛名号
北茨城市和牛改良組合	駒木根 忠	きたてる2
大子町和牛改良組合	(株) 益子農林	くにやすはな
常陸太田市和牛改良組合	(株) ファーム赤土	あい
常陸太田市和牛改良組合	椎名 みち子	ゆうこ





いばらきの高品質豚肉

ローズポーク

茨城県銘柄豚振興会

事務局
〒311-3155 東茨城郡茨城町下土師1950
全国農業協同組合連合会 茨城県本部内
TEL / 029-292-8004
FAX / 029-292-7743



茨城県銘柄鶏

奥久慈しゃも

奥久慈しゃも生産組合

〒319-3523 茨城県久慈郡大子町袋田3723
TEL / 0295-72-4250
FAX / 0295-72-2944

茨城県が誇る、極上の霜降り牛肉

常陸牛

ひたちぎゅう

公益社団法人 茨城県畜産協会

TEL / 029(231)7501 FAX / 029(222)2032

○当協会に対する意見・要望
Eメール info@ibaraki.lin.gr.jp

○本紙への掲載「催事・各種情報」
Eメール kobayashi-kenichi@ibaraki-lia.or.jp

○ホームページ
<http://ibaraki.lin.gr.jp>